

だれが罪を赦すことができるか

ルカの福音書 5章 17-26 節

はじめに

今日は、イエス様が「**中風をわずらっている人**」を癒されるという出来事から学びたいと思います。イエス様はある日、家の中で人々を教えたり、病気を治しておられました。そこには、大勢の人が集まっていました。そしてその大勢の人の中には、17節にあるように「**パリサイ人たちと律法の教師たち**」が座っていました。彼らは、「**ガリラヤとユダヤのすべての村やエルサレムから**」来ていました。彼らは、旧約聖書を熱心に学び、人々を教えていました。彼らは、ユダヤ人の宗教指導者たちで、イエス様の噂を聞き、イエス様を調査しに来ていたのです。何か間違ったことを語っていないか、何か間違ったことをしていないか、そういう関心で、イエス様のもとにやって来たのです。

1. 彼らの信仰を見て

すると、その家の中で、人々が非常に驚き、恐れに満たされるような出来事が起こります。18-19節にはこうあります。「**すると見よ。男たちが、中風をわずらっている人を床に載せて運んで来た。そして家の中に運び込み、イエスの前に置こうとした。しかし、大勢の人のために病人を運び込む方法が見つからなかったので、屋上に上って瓦をはがし、そこから彼の寝床を、人々の真ん中、イエスの前につり降ろした**」。

「中風」とは、脳の血管障害の後遺症で、体の半分または一部が麻痺する病気です。今日の聖書箇所に出てくる中風の人は、寝床のまま運ばれて来たので、自分で起きることも歩くこともできない状態であったようです。家の中には、大勢の人がいたので、寝床のままイエス様のもとに行くことはできません。それで男たちが、屋上に上って瓦をはがし、寝床のまま、人々の真ん中、イエス様の前に、彼をロープか何かでつり降ろしたのです。マルコの福音書によると、彼をつり降ろした男たちは、「四人」であったと書かれています。普通なら、家の中に大勢の人がいれば、人々が帰るまでしばらく外で待つとか、また別の機会にするとかを考えます。しかし彼らは、そうは考えません。彼らは、他人の家の屋上の瓦をはがしてまで、イエス様のもとに中風の人を連れて行こうとするのです。これは、非常識な行動です。イエス様の教えを静かに聞いている人もいたでしょう。病気を治してもらおう順番を待っていた人もいたでしょう。この家を大切にしている家主もいたでしょう。しかし彼らには、その人たちのことを考える余裕はありませんでした。何としてでも、イエス様に癒してもらいたい、絶対にこの機会を逃してはならない、イエス様なら必ず何とかしてくれるという強い思いがあったからでしょう。

彼らの行動は、非常識であったため、多くの反感もあったことでしょう。ある人は、彼らの行動は、わがままな自己中心と見たでしょう。では、イエス様は、彼らの行動をどう見たのでしょうか。20節を見ると、「**イエスは彼らの信仰を見て、『友よ、あなたの罪は赦された』と言われた**」とあります。

この家の中にいる人は、非常識で、わがままで自己中心な彼らを、イエス様が注意してくれると期待したかもしれません。「他人の家を壊してはなりません」とか「順番を守りなさい」とか、イエス様が彼らを注意してくれることを期待していたかもしれません。しかしイエス様は、彼らを一切注意することなく、彼らの行動を、非常識とかわがままとか自己中心と見たのではなく、彼らの「信仰」と見られたのです。そして、その彼らの信仰を見て、中風の人に「あなたの罪は赦された」と言われたのです。

① 信仰は、聞くことがすべてではなく、見るもの

ここでいくつか考えさせられることがあります。その一つは、イエス様は、彼らの信仰を「聞かれた」のではなく、「見られた」とあるところです。今日の聖書箇所にも、中風の人も含めて、男たちの言葉は、一つも書かれていません。イエス様は、彼らの信仰を、彼らの言葉から読み取られたのではなく、彼らの行動から読み取られたのです。

私たちは、信仰を言葉で表現することを大切にします。つまり、信仰の告白を大切にします。礼拝でも「使徒信条」を通して、私たちの信仰を告白しますし、特に今日の聖書箇所のように、人の罪が赦される、人が救われるという時には、その人の「イエス様を信じます」という信仰の告白を大切にします。しかし今日の聖書箇所では、信仰の言葉が一つも書かれていないのに、罪の赦しが宣言されているのです。イエス様は、彼らの言葉のうちに信仰を見られたのではなく、彼らの行動のうちに信仰を見られたのです。

ここから私たちは、信仰というのは、言葉がすべてではないと教えられます。逆に言えば、言葉なら何とでも言うことができます。心にないことだって言うことができます。信仰というのは、言葉だけではなく、行動に現れなければならないのです。彼らは、言葉は一つも語りませんでした。しかしイエス様を求める思いは、人一倍でした。イエス様なら必ず何とかしてくれるという思いは、他人のことを考える余裕がないほど、でした。彼らの非常識な行動は、ある人には迷惑なものかもしれません。しかしイエス様は、ご自身を熱心に求める心、ご自身を信じ、期待する心を見ておられたのです。

信仰において、言葉は大切です。しかし言葉がすべてではないと思います。信仰を言葉で表現できない人は、この世界にいくらでもいます。病気や障がいで、言葉をうまく表現できない人もいます。認知症になって、言葉をうまく表現できなくなることだってあります。病床で死の直前に洗礼を受けるすべての人が、信仰を言葉で表現できるわけでもありません。イエス様から教えられることは、信仰は聞くことがすべてではなく、見るものだという事ではないでしょうか。信仰をうまく言葉で表現できないけれど、喜んで毎週礼拝に来ることを通して信仰を表現する人もいるでしょう。体の自由が利かなくなると言葉

は発せないけれど、瞬きや涙、手を握ることを通して、信仰を表現する人もいます。イエス様は、信仰を見る方であるということを忘れないでいたいと思います。

② 彼の信仰ではなく、彼らの信仰を見られた

もう一つ、考えさせられることは、イエス様は、中風の人々の信仰を見て、中風の人に「あなたの罪は赦された」と言われたのではなく、「彼らの信仰」、つまり中風の人をつり降ろした「男たち」の信仰を見て、中風の人に「あなたの罪は赦された」と言われたのです。ここでは、中風の人々の信仰は問われていないのです。つまり罪の赦しの宣言をされた本人の信仰は、問われていないのです。もちろん、中風の人々も信仰を持っていたと思います。彼は、25節を見ると、癒やされた後に「**神をあがめながら自分の家に帰って行った**」とありますから、彼もイエス様に対する信仰を持っていたと考えるほうが自然です。

しかしこの出来事が強調しているのは、中風の人々の信仰ではなく、彼をイエス様のもとに連れて来た人たちの信仰なのです。彼らの信仰のゆえに、中風の人に罪の赦しを宣言されたのです。この出来事が教えていることは、執り成しの大切さではないでしょうか。一人の人がイエス様に出会い、イエス様を信じ、救われるには、多くの人々が関わっていると言えます。自分一人で、自分の力でイエス様を信じた、クリスチャンになったというのはいり得ないことです。一人の人が救われるためには、家族や友人の祈り、教会の祈りが長年ささげられてきたのです。皆さんが、こうしてイエス様を信じてクリスチャンになったのも、背後で多くの人々が祈ってくれていたからではないでしょうか。あなたをイエス様のもとに連れて来てくれた、多くの人々の祈りと信仰があったからこそ、あなたはイエス様に出会い、クリスチャンになったのではないのでしょうか。私たちは、そのことを忘れてはなりません。

そうであるならば、私たちも誰かのために執り成し、祈るべきではないでしょうか。私たちに、イエス様に出会ってほしい人がいるのではないのでしょうか。自分の子どもたちはどうでしょうか。私も毎日、子どもたちのために祈っています。自分の夫はどうでしょうか。自分の親はどうでしょうか。大切な友人はどうでしょうか。教会に来ている求道者はどうでしょうか。子ども食堂やオレンジカフェに来ている地域の人たちはどうでしょうか。イエス様は、執り成す人たちの信仰を見ておられるのです。誰かの救いのために祈る私たちの信仰を見ておられるのです。そして、私たちの信仰のゆえに、それらの人々を救いに導いてくださるということを今日の聖書箇所は、教えているのではないのでしょうか。彼らは、今は全くイエス様に関心がないかもしれませんが。しかし私たちは決して希望を失ってはなりません。あの男たちのように、イエス様なら必ず何とかしてくれるという、イエス様を求める熱心な信仰こそが、彼らを救いに導いていくことになるのです。

③ 信仰と罪の赦し

さらにもう一つ考えさせられることは、彼らはおそらく中風の人々の癒しを求めていたに

も関わらず、イエス様は「罪の赦し」の宣言をされたのはなぜかということです。屋上の屋根がはがされ、中風の人がイエス様の前につり降ろされて来た時、その場にいた多くの人が期待したのは、中風の人が癒されるかどうか、ということだったと思います。しかしイエス様がまず行なったのは、中風の人の「罪の赦し」です。イエス様が男たちの信仰に答えて、中風の人にまず与えたものは、からだの癒しではなく、魂の癒し、すなわち「罪の赦し」です。

イエス様への信仰が、私たちにもたらすものは、からだの癒しではなく、「罪の赦し」です。イエス様を信じてクリスチャンになっても、病気が癒されない人はいくらでもいます。しかしイエス様を信じてクリスチャンになった人は、確実に魂は癒やされ、「罪の赦し」は与えられています。聖書が語る「罪」というのは、神様に対する私たち人間の罪であり、神様の律法を破ることを意味します。神様の律法は、モーセの「十戒」に要約して書かれていますが、その中心は二つのことです。一つは神様を愛すること、もう一つは人を愛することです。神様と人を愛して生きることを、神様は私たちすべての人間に求めておられます。そして、神様と人を愛さないことを、聖書は「罪」と呼んでいるのです。神様と人を愛さない人は、誰を愛しているのかと言うと、自分自身を愛しているのです。神様も人も愛さないで、ただ自分だけを愛して生きることを、神様のことも考えず、人のことも考えず、ただ自分のことだけを考えて自己中心に生きることを、聖書は「罪」と呼んでいるのです。

皆さんは、そういう意味での「罪」が自分の中にあるでしょうか。私自身は、自分が「罪人」であるとはっきりと分かります。日本の法律の前に、犯罪者ではないかもしれませんが。しかし神様の前では、神様の律法の前では、自分が「罪人」であることがはっきりと分かります。なぜなら私は、神様よりも自分のことを考える性質があり、人のことよりも自分のことを考える性質があることを、自分の内に見出すからです。どんなに聖書を通して愛を説いても、自己中心の性質から完全に自由になることは、今はできません。

聖書はさらに、私たち人間のその罪が、神様の怒りと呪いに値し、人生でのあらゆる苦しみと悲しみ、肉体の死と永遠の地獄の刑罰を引き起こすことになったと教えています。それゆえ神様に罪が赦されなければ、すべての人間が、人生でのあらゆる苦しみや悲しみ、肉体の死と永遠の地獄の刑罰のもとで苦しまなければならないのです。これが、聖書が教える私たち人間の現実です。

そういう現実の中で、イエス様は、ご自身に対する信仰によって、「あなたの罪は赦された」と宣言なさるのです。しかもここでの「罪」は、原文では複数形で書かれているので、何か特定の一つの罪ではなく、すべての罪です。イエス様を信じる人は、神様に対するすべての罪が赦され、永遠の地獄の刑罰から救われるのです。

2. 人の子が地上で罪を赦す権威を持っている

しかし律法学者、パリサイ人たちは、イエス様の罪の赦しの宣言を、神様への冒瀆と考

えました。神様に対する罪は、神様にしか赦すことができません。それなのにただの人間であるイエスという男が、罪の赦しの宣言をしていると考えたからです。そこでイエス様は彼らに、『**あなたの罪は赦された**』と言うのと、『**起きて歩け**』と言うのと、**どちらが易しいか**』とされます。皆さんは、どちらが易しいと思いますか。ある意味では、「あなたの罪は赦された」と言うほうが簡単です。なぜなら、罪が赦されたかどうかは目には見えないからです。言葉だけなら、いくらでも「罪は赦された」と言うことはできます。逆に、「起きて歩け」と言えば、目に見える癒しが起こらなければなりません。その意味では、「起きて歩け」と言うほうが難しいと言えます。しかし「罪の赦し」は、神様にしかできないことです。病人の癒しは、預言者や使徒たちにもできました。その意味では、「あなたの罪は赦された」と言うほうが難しいとも言えます。

イエス様は、中風の人の罪を赦すだけでなく、『**あなたに言う。起きなさい。寝床を担いで、家に帰りなさい**』と言われて、中風の病を癒されました。それは、『**人の子が地上で罪を赦す権威を持っていることを、あなたがたが知るため**』だと言われます。イエス様は、イエス様には罪を赦す権威があることを知らせるために、中風の人の病を癒されました。これはどういうことでしょうか。先ほども言ったように、「罪の赦し」は目には見えません。本当にその人の罪が赦されたかどうかは、言葉だけでは分かりません。ですからイエス様は、イエス様の言葉には力がある、真実であることを証明するために、中風の人の病を言葉で癒されたのです。イエス様が言葉一つで、中風の人の病を癒されたことを見た人々は、イエス様の言葉は力がある、イエス様の言葉は真実であると、確信したのではないのでしょうか。それと同時に、「あなたの罪は赦された」というイエス様の言葉も、確かに真実である、確かに中風の人の罪は赦されたと確信したのではないのでしょうか。

おわりに

言葉は大切なものです。しかし言葉には限界があります。それは目には見えないからです。それが真実であることを証明するためには、目に見える証拠が必要です。「罪の赦し」と同じように、「神様があなたを愛している」という言葉も、目には見えません。本当に神様が私たちを愛していることを、どのように証明するのでしょうか。私たちの教会では、礼拝で何度となく「神様はあなたを愛している」という言葉を語ります。そしてそのメッセージを、できるだけ多くの人に知ってもらいたいと思います。しかし多くの方は思うでしょう。神様が自分を愛しているとどうして分かるのかと。人々は、目に見える証拠を求めているのです。私たちの教会が、なぜ子ども食堂やオレンジカフェを行うのでしょうか。それは、神様の愛を目に見えるかたちで表すためではないのでしょうか。子どもたちの貧困に手を差し伸べ、高齢者たちの弱さに寄り添うのは、「神様はあなたを愛している」というメッセージを、言葉だけではなく行動で表すためではないのでしょうか。「神様はあなたを愛している」というメッセージは、言葉と行動の両方で人々に示す時に、確かに本当である、真実であると人々に受け取られるのではないのでしょうか。

天におられる私たちの父なる神様。

私たちの性質は、自己中心です。罪の性質が全身にこびりつき、そこから完全に自由になることは、今はできません。しかしイエス様を信じる時、すべての罪が赦され、神様の怒りと呪いから、また永遠の地獄の刑罰から救われると知りました。どうかイエス様の「あなたの罪は赦された」という言葉を、信じることができますように。イエス様の言葉には、力がある、真実であると信じさせてください。

また一人でも多くの方が、「神様があなたを愛している」というメッセージを信じることができますように。そのために、私たちの信仰と祈りを用いてください。またこの教会の働きを用いてください。

この祈りを私たちの救い主イエス・キリストの御名によって祈ります。アーメン。